

主体的に考える児童の育成  
— 国語科における協働的な学習を通して —

6年生の研究授業より

「風切るつばさ」の単元で、自分の考えの根拠を共有する授業を行いました。修学旅行など、大変忙しい時期に貴重な授業を提供していただいた武田先生に感謝です。

今回の検討会の内容から、6年生の授業で共通理解したいところは以下の点です。

- 本時の「めあて」や学習の進め方を事前に板書することで、時間を節約し、協働的な活動により長く取り組むことができる。  
さらに、児童へ学習の見通しを持たせることができる。

今後の研究授業の中に、意識的に取り入れましょう！！



野中先生の指導助言より

今後の参考になりそうなところを載せてみます。

物語文は集約するための課題よりも、考えが広がるような課題がよい。



「なぜ」ではなく。例:どのようにクルルの心はかわっていったの？

仲間分けだけではない「考える」授業を



付箋の整理のさせ方を工夫したり、ジグソー学習的な手法を取り入れたりすることも効果的のでは。